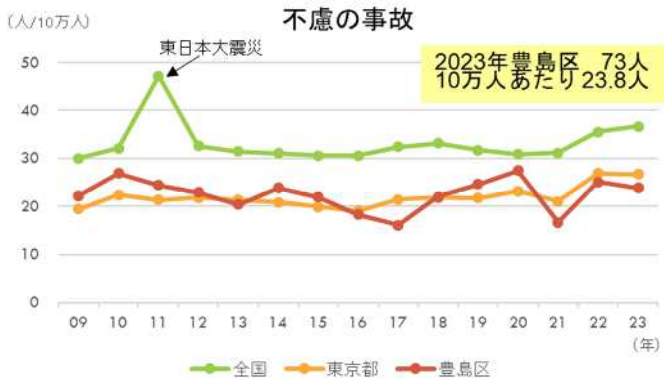
資料1

不慮の事故等による死亡・けがの状況

（１）死亡に関するデータ（人口動態統計※）

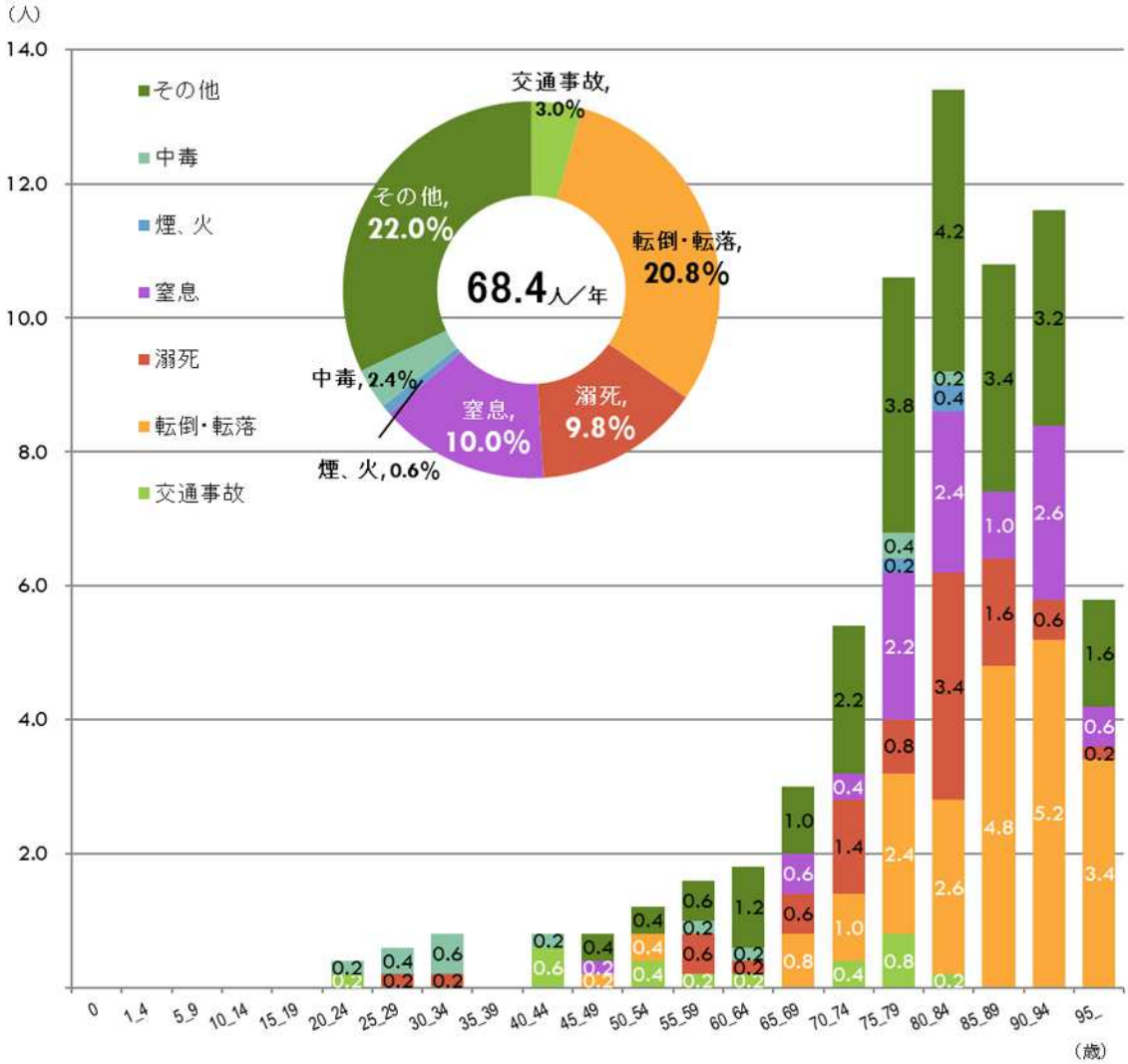
※厚生労働省が実施する人口動態調査の調査票情報を利用した独自集計であり、厚生労働省の公表数値とは一致しない場合があります

①　死亡の状況（人口 10 万人あたり）

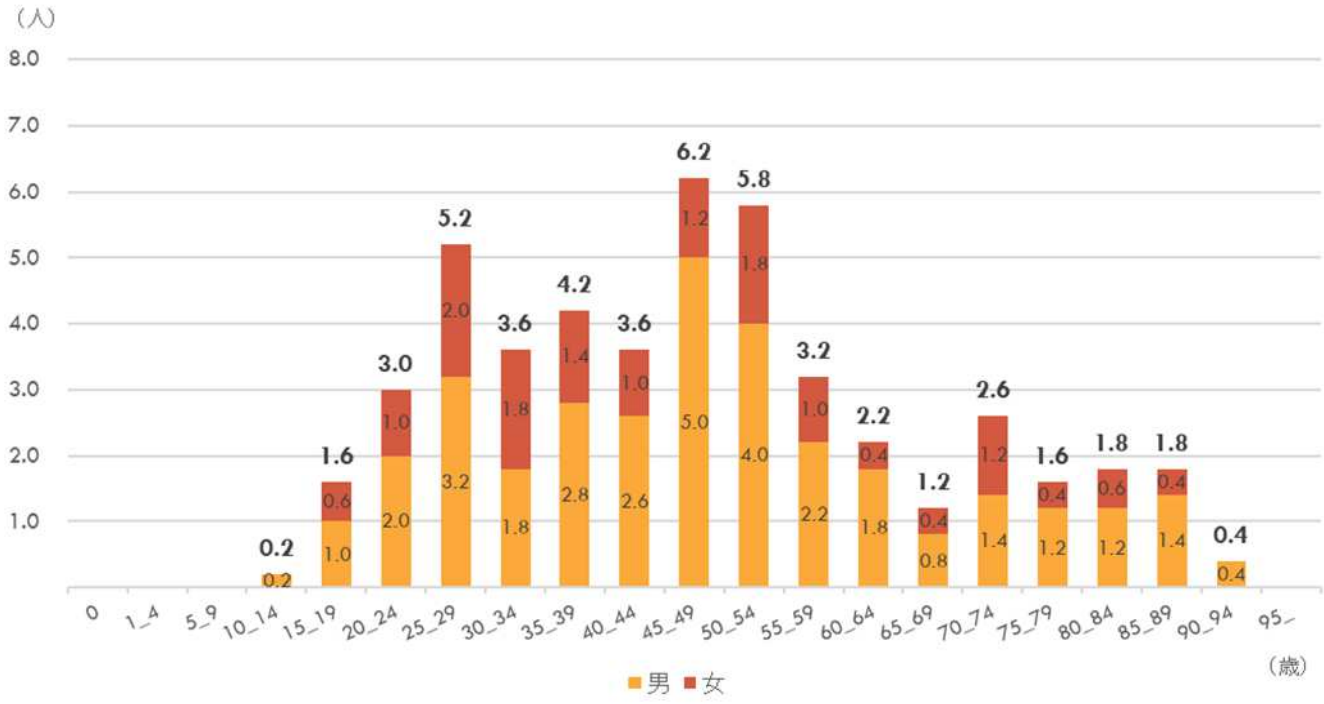


※　この項目は人口動態統計を用いた「豊島区の保健衛生」から数値を引用しており、発行時期の兼ね合いで 2022 年までとなっております。

②　不慮の事故による死亡［年齢別］（令和２(2020)～令和６(2024)年の平均値）



③　自殺による死亡［年齢別］（令和２(2020)～令和６(2024)年の平均値）



（２）けがに関するデータ（救急搬送データ）

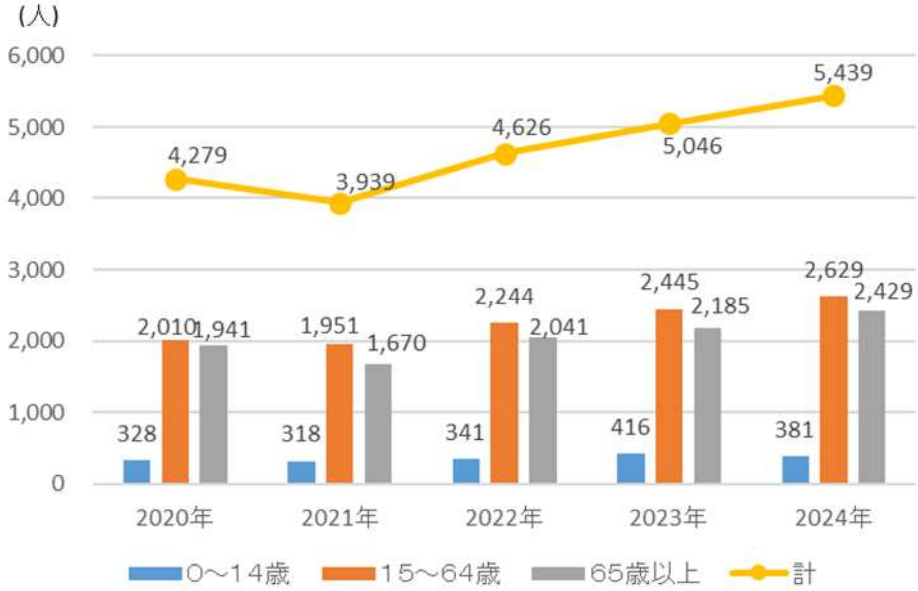
①　救急搬送件数の推移

豊島区では、セーフコミュニティ活動の外傷サーベイランスの一つとして、消防署の協力により、個人情報を除く救急搬送データの提供を受け、傷害分析を行っています。

豊島区内への救急出動のうち、事故やけがにより受傷し、医療機関に搬送され、医師に引き継がれたケースを抽出して分析することにより、けがの実態を把握することができます。

けがや事故によるものだけで、毎年平均 4,700 件程度（過去 5 年間）の救急搬送があります。

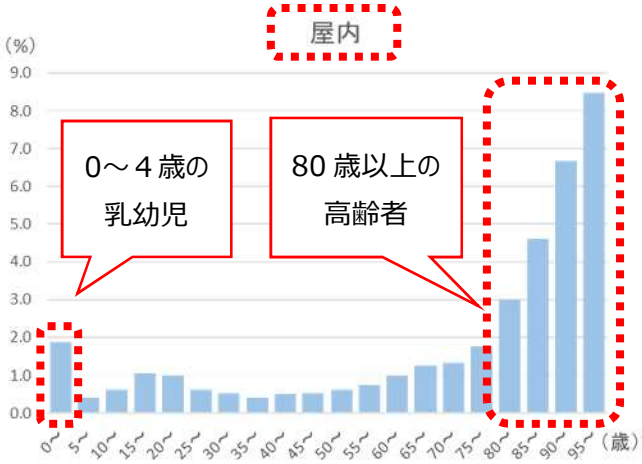
【主な項目】
・受傷者の年齢、性別
・受傷した場所
・受傷の程度
・受傷の原因

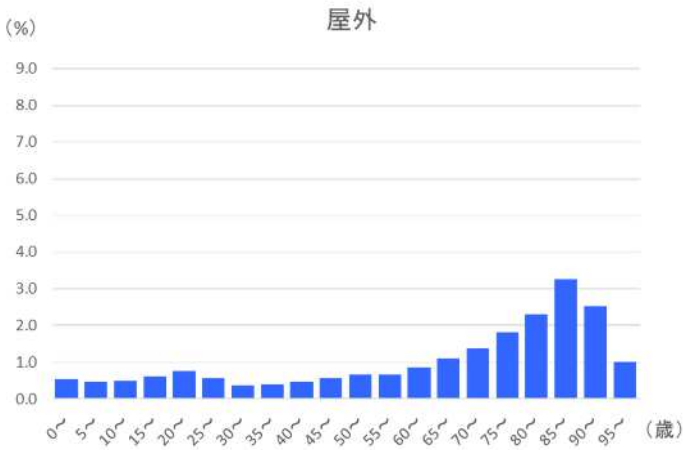


② 救急搬送に至った事故の発生率 ［令和６(2024)年］

区内で発生したけが・事故による救急搬送は、令和６(2024)年は5,439件でした。

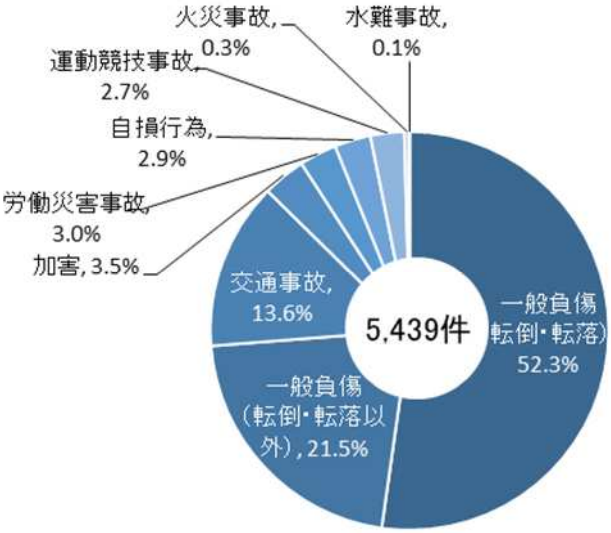
各年齢層の人口をもとに各年齢層での発生率を算出すると、全体的に屋外よりも屋内での発生率が高くなっています。特に0～4歳、80歳以上の発生率が高く、高齢者は年齢が高くなるにつれて、発生率も上昇しています。





③ どんな事故が多いか ［令和６(2024)年］

事故の種別ごとに救急搬送の状況をみると、全年齢では一般負傷（転倒・転落）の割合が52.3%と最も多く、次に一般負傷（転倒・転落以外）が21.5%となっています。65歳以上では、転倒・転落が7割以上を占めており、0～14歳では、転倒・転落以外の一般負傷と運動競技事故の割合が全年齢と比べて高くなっています。



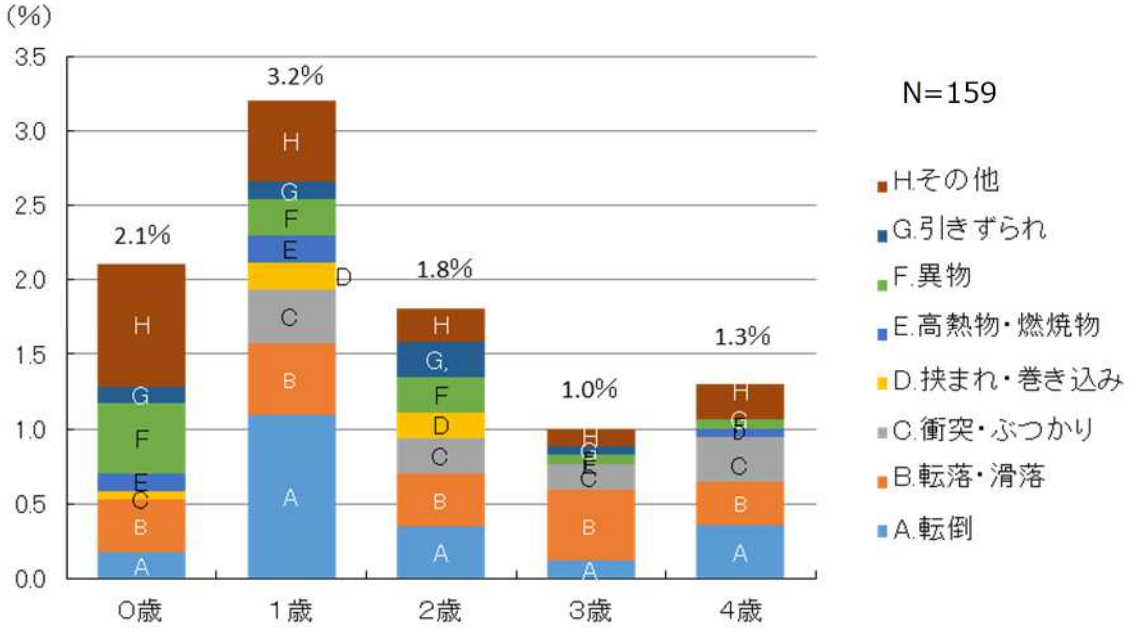
	全年齢		
		うち0～14歳	うち65歳～
合　計	5,439	381 （ 100.0% ）	2,429 （ 100.0% ）
一般負傷（転倒・転落）	2,842	140 （ 36.7% ）	1,825 （ 75.1% ）
一般負傷（転倒・転落以外）	1,170	167 （ 43.8% ）	372 （ 15.3% ）
交通事故	740	40 （ 10.5% ）	149 （ 6.1% ）
加害	190	4 （ 1.0% ）	17 （ 0.7% ）
労働災害事故	165	0 （ 0.0% ）	34 （ 1.4% ）
自損行為	160	2 （ 0.5% ）	13 （ 0.5% ）
運動競技事故	149	28 （ 7.3% ）	6 （ 0.2% ）
火災事故	19	0 （ 0.0% ）	9 （ 0.4% ）
水難事故	4	0 （ 0.0% ）	4 （ 0.2% ）
自然災害事故	0	0 （ 0.0% ）	0 （ 0.0% ）

④　4 歳以下の屋内でのけがの原因　［令和６(2024)年］

屋内でのけがの発生率が高い 0～4 歳の子どもについて、もう少し詳しく見ると、1 歳が 3.2%と最も高く、次いで 0 歳が 2.1%という順になっています。

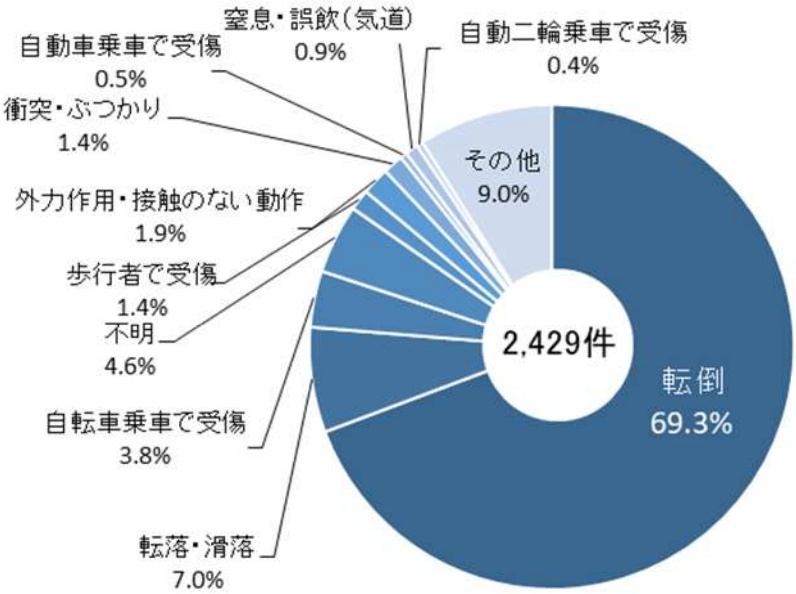
また、けがの原因を見ると、0～3 歳は転落・滑落が多く、4 歳は転倒、衝突・ぶつかりが多くなっています。

屋　内（4 歳以下）



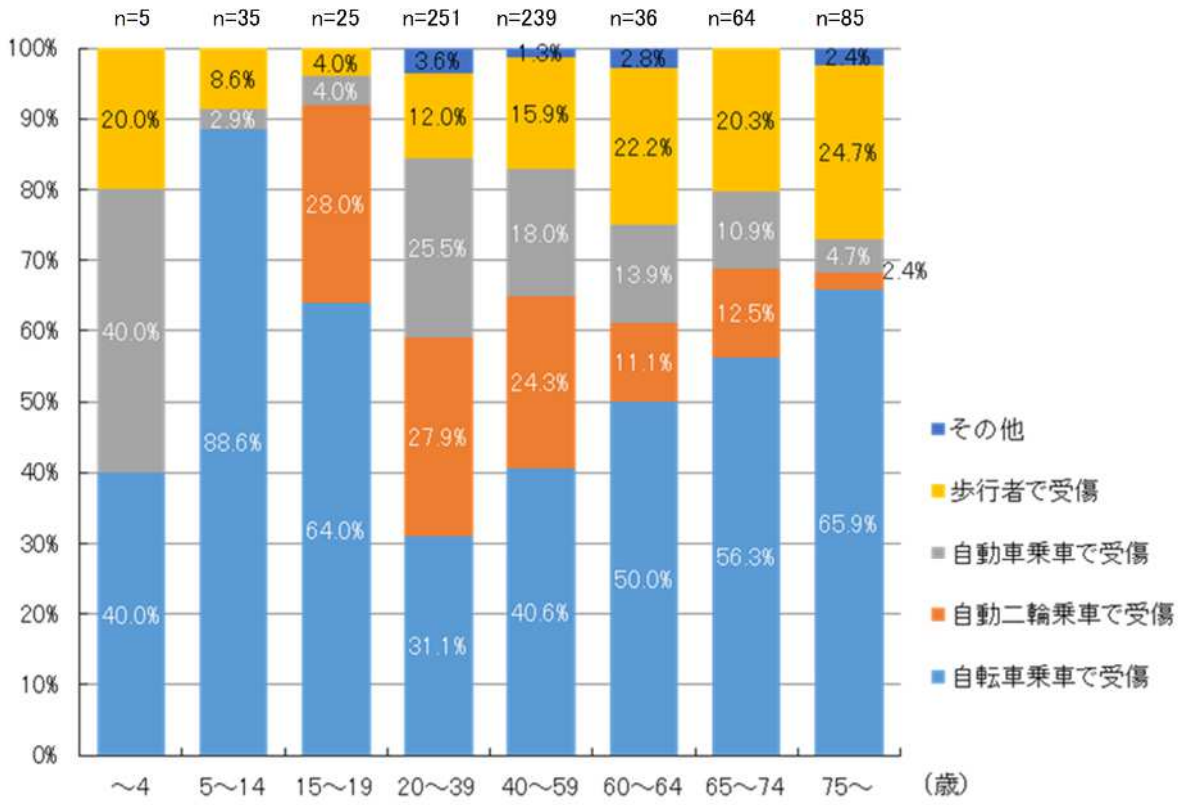
⑤　高齢者のけがの原因　［令和６(2024)年］

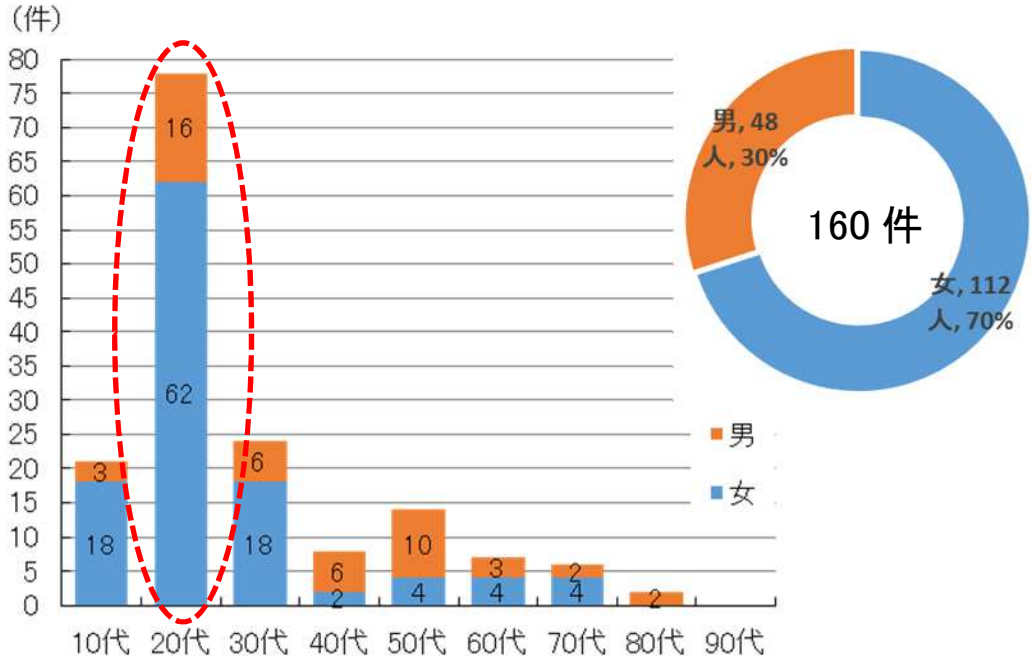
高齢者のけがの状況について救急搬送データをみると、転倒と転落・滑落が 76.3%となっています。



⑥　交通事故によるけがの状況　［令和６(2024)年］

救急搬送データから、年代別に交通事故の発生状況をみると、0～4 歳、20～59 歳を除くすべての年代で、自転車乗車で受傷が 5 割を超えています。特に、5～14 歳は 88.6%と多くなっています。



⑦　自殺未遂の状況　［令和 6(2024)年］

救急搬送データの自損行為（自殺・自殺未遂）による救急搬送は、2024 年では 160 件発生しています。年齢層別にみると 20 歳代が 78 件で最も多く、全体的には男性よりも女性が 64 件多くなっています。